

公開シンポジウム

『健康・生活価値』の探求—健康・生活科学委員会からの学術・教育への緊急提言』の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成23年1月7日（金）、13:00～17:00 頃
4. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-2-2-34）
5. 開催趣旨：

人々の健康と生活は現在、多様で深刻な問題に直面している。まず地球規模で進む環境破壊の問題が人々の健康と生活に大きな影響を及ぼしている。また、我が国では少子高齢化が進み、地域では医療危機がますます深刻化し保健医療現場の疲弊が進んでいる。財政の低迷は雇用環境の悪化を引き起こし、社会格差がさらなる広がりを見せ、同時に健康格差や、年金や社会保障など種々の問題に波及しつつある。また日常生活における生活力や生活体力の低下など多様で深刻な現在の社会問題は、次世代社会への人々の生命・生活の質（QOL）への脅かしとなっている。

一方、人間の健康と生活や安全を中心に据えながら環境と社会に向き合う学問の発展は、今、まだその緒についたばかりである。現代社会が抱える健康と生活の劣化とそれへの対応は、一側面からの研究では解明し難い。多元的で他世代に及ぶ現象を、〈人間の生活の質〉〈人間の生活環境〉〈人間の生きる力、生活力〉といった多元的な視点から切り込み、解明の糸口を探るため、人間生活にかかわる分離融合型の統合的研究推進が求められている。さらに、健康・生活科学分野の研究の成果について、国民の理解を得、国民が科学を力とするためには、小学校、中学校、あるいは、高等学校など学校教育の早期から系統だった教育が必要であると考え。

健康・生活科学は、人々が環境との関わりにおいてより健康で豊かな生活を送るため、生命・生活の質（Quality of life, 以後、QOL）を高めることとともに、それを担保する健康と安全のための保健医療政策やシステム、マネジメント、教育等を含めて追求する総合的な学問分野といえる。日本学術会議健康・生活科学委員会には、パブリックヘルス科学、看護学、生活科学、スポーツ科学の各分野の問題を扱う分科会に加え、他の委員会等の合同の分科会が所属し、健康・生活科学に関する学術のあり方を多角度から議論している。

本シンポジウムでは、戦後の『経済価値』重視の視点から、『健康・生活価値』への転換および共存について、特に学術の発展の方向性と次世代教育への提言を健康・生活科学の分野から行うものである。

本シンポジウムは、広く一般に公開することで、多くの研究者や教育者とともに人々

の健康と生活の質の向上にむけた新たなる価値の追求について討論することで、健康・生活科学の更なる発展の方向性が明らかになることが期待される。また、『日本の展望—学術からの提言 2010 健康・生活科学分野の展望』を広く社会に公開する機会にもなると考える。

6. 次第：

○開会挨拶と趣旨説明：

南 裕子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会委員長、近大姫路大学学長）

○会長ご挨拶：

金澤一郎（日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管）

○司会と進行：

春日文子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会幹事、国立医薬品食品衛生研究所室長）

○シンポジスト

1) 公衆衛生学分野から

岸 玲子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会副委員長、北海道大学環境健康科学研究教育センター長・特任教授）

2) 看護学分野から

太田 喜久子（日本学術会議連携会員、慶応大学看護医療学部教授）

3) スポーツ健康科学分野から

福永 哲夫（日本学術会議第二部会員、鹿屋体育大学学長）

4) 生活科学分野から

片山 倫子（日本学術会議第二部会員、同健康・生活科学委員会幹事、東京家政大学家政学部教授）

○総括

南 裕子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会委員長、近大姫路大学学長）

○シンポジウムの閉会

岸 玲子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会副委員長北海道大学環境健康科学研究教育センター長・特任教授）

★参加費無料、事前申し込み不要です。

★お問い合わせ先：

近大姫路大学 南裕子 電話 079-247-7422